

図-2.2.14 建設作業振動の予測地点

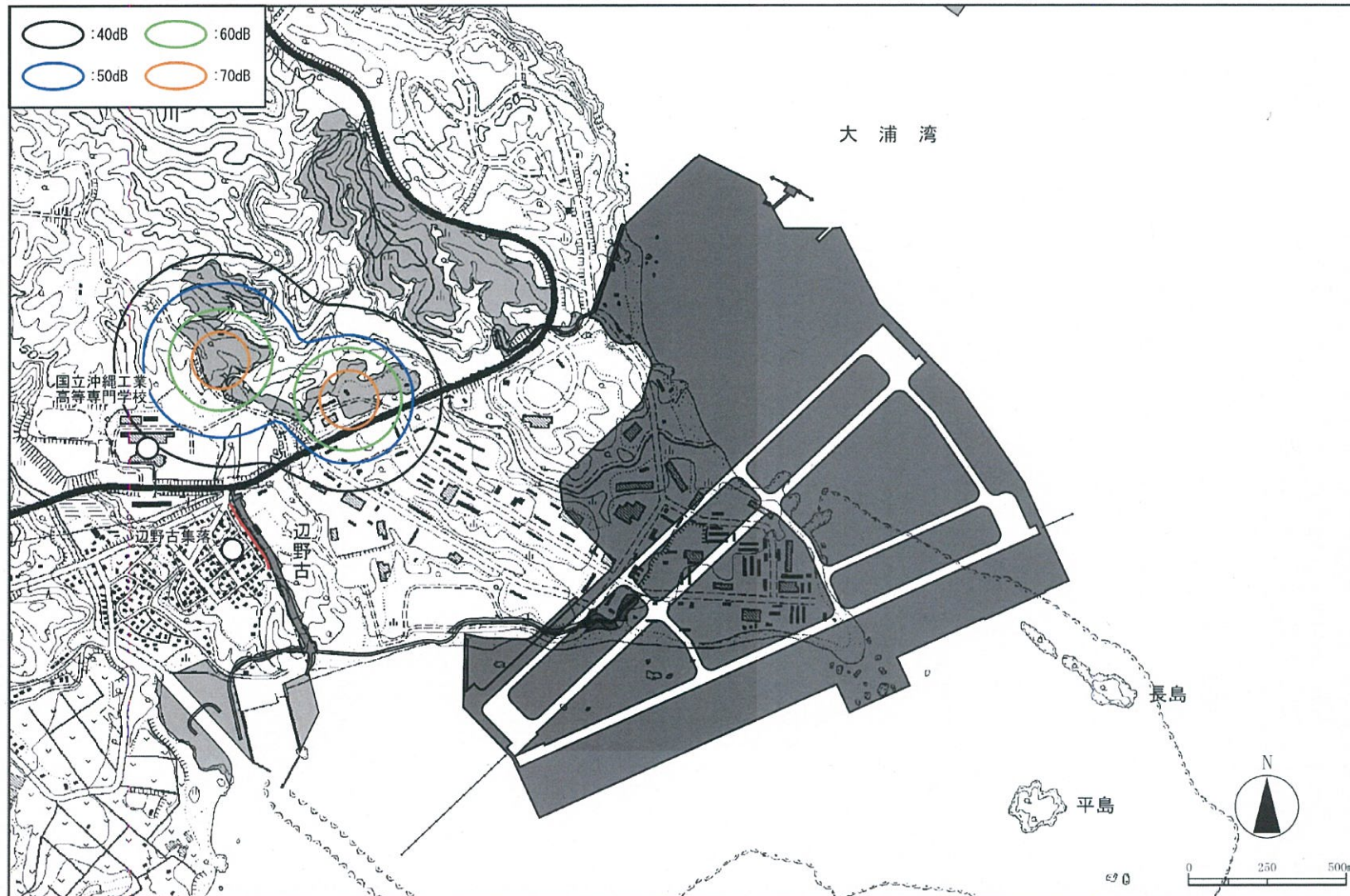


図-2.2.15(1) 建設作業振動の予測コンター（国立沖縄工業高等専門学校）

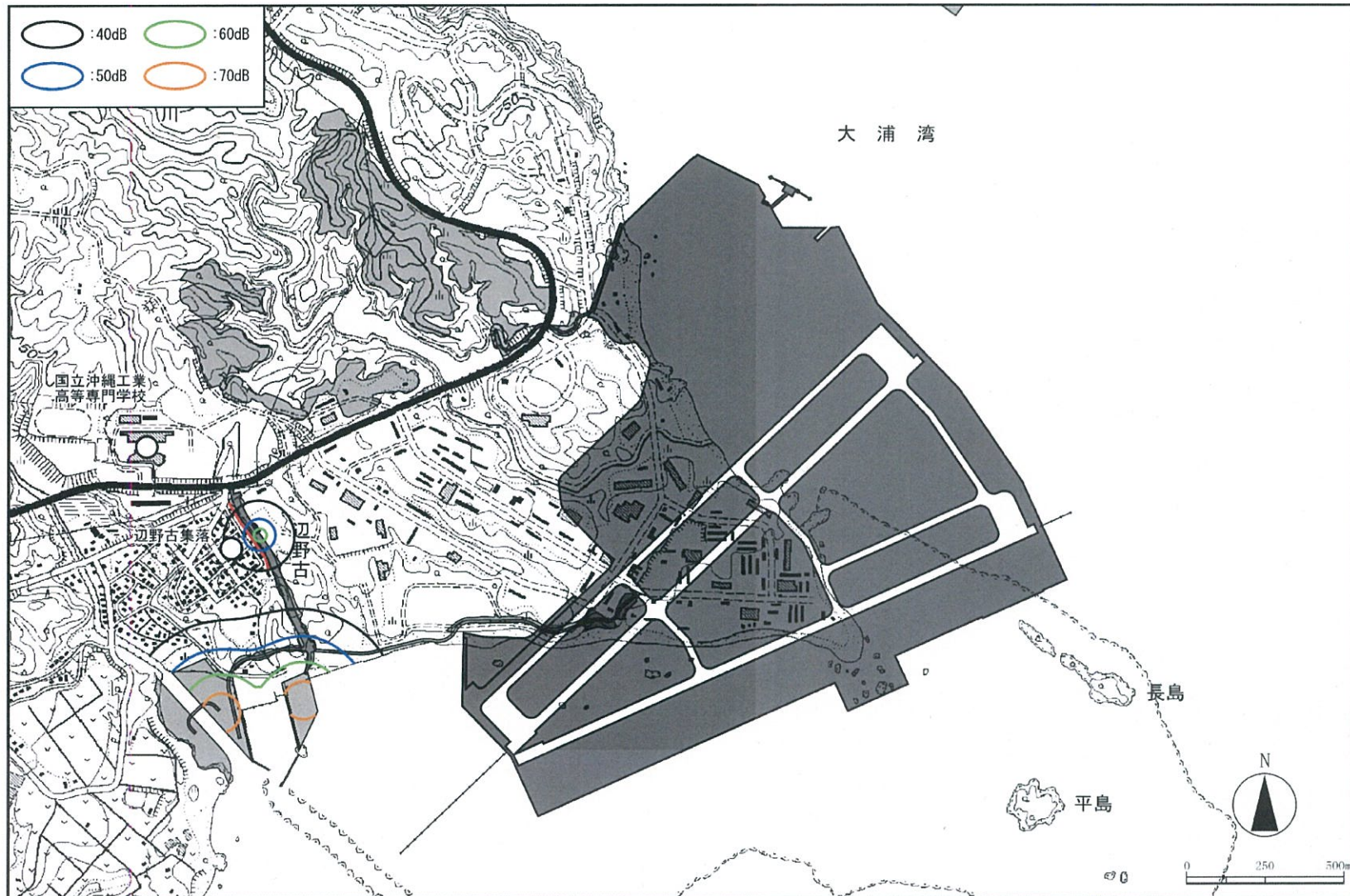


図-2.2.15(2) 建設作業振動の予測コンター（辺野古集落端）

2) 調査地点の設定の考え方

予測の結果を検証するため、工事箇所の近傍住宅地とする。

3) 調査地点の設定結果

環境監視調査地点は、国立沖縄工業高等専門学校と辺野古集落の事業実施区域側の敷地境界上の計2地点とする(図-2.2.16)。

(3) 調査時期・期間

工事期間中、年毎の工事工程を考慮して年4回(春季、夏季、秋季、冬季)とし、建設作業騒音と同時期に昼夜(測定日の工事時間中)の測定を行う。

(4) 調査方法

振動レベル測定方法(JIS Z 8735)に基づき、調査地点の道路端の平坦な地面に振動計を設置して測定を行う。

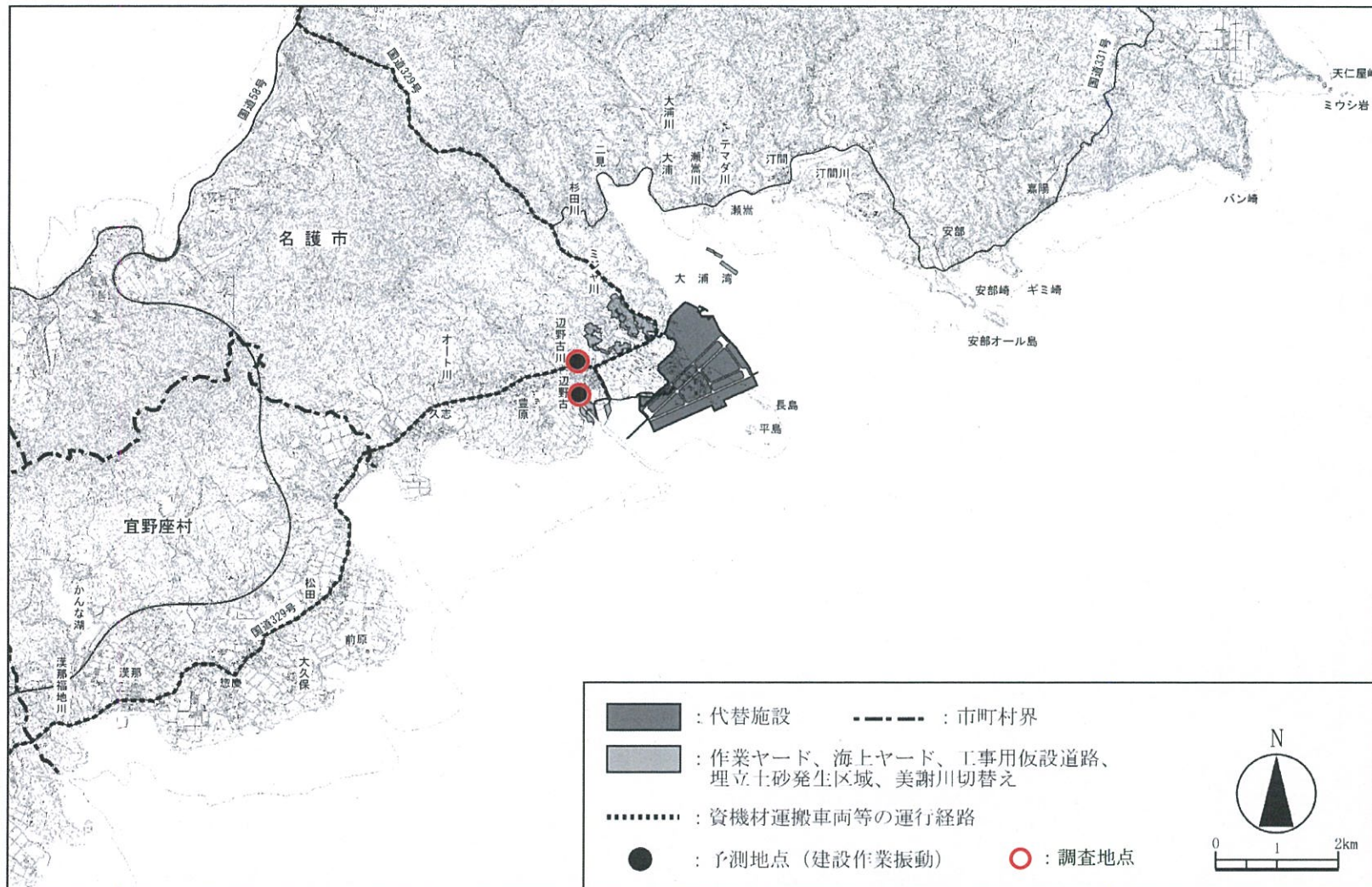


図-2.2.16 建設作業振動の調査地点位置

(国立沖縄工業高等専門学校と辺野古集落の事業実施区域側の敷地境界上の計2地点)

(5) 環境影響の程度が著しいと判断される状況に係る確認・対応の方法

1) 判断基準

特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準で、敷地境界上で75 デシベル以下とする。

建設作業振動に係る環境保全の基準又は目標

区域の区分	環境保全の基準又は目標
第1号区域	75 デシベル以下

2) 確認・対応の方法

環境監視調査の結果、監視基準を超過する又は超過する可能性があると判断される場合には、環境保全措置の見直しや追加の措置等を講じる。

2.2.5 建設機械・船舶、資機材運搬車両等の低周波音

(1) 調査項目

建設機械・船舶、資機材運搬車両等の低周波音、風向・風速

(2) 調査地点

1) 評価書における調査結果

工事中の予測は実施していない。調査地点は図-2.2.17に示すように、陸域は17地点、海域は4地点で実施されている。

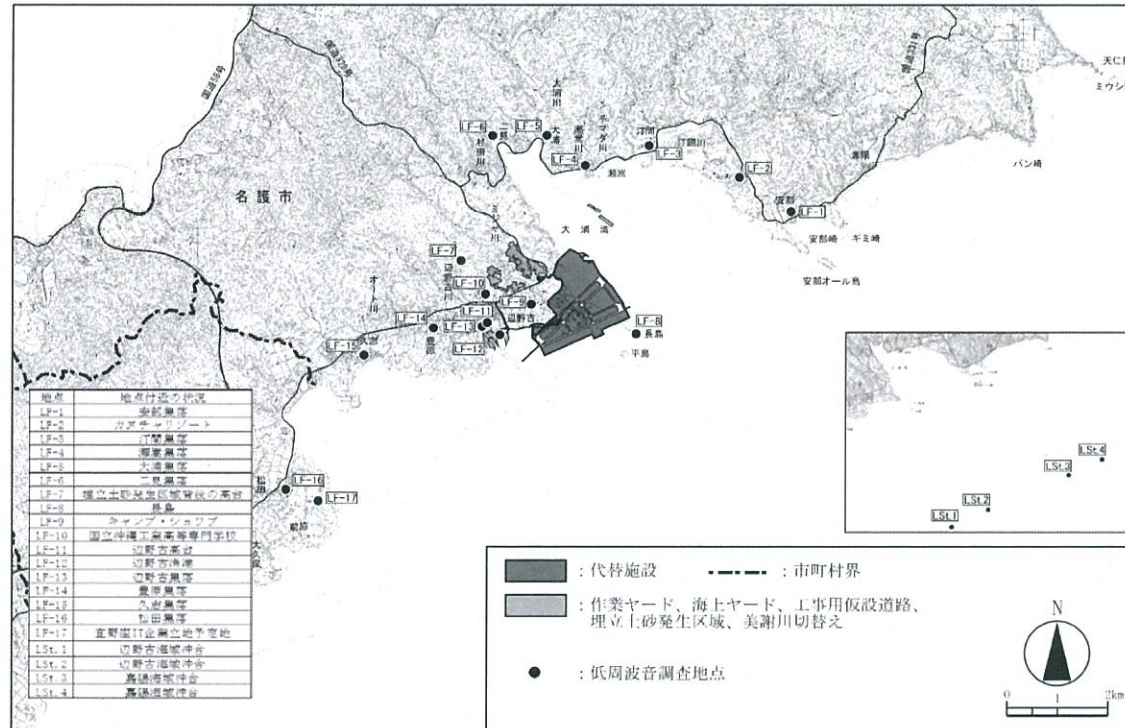


図-2.2.17 低周波音の測定地点(平成20年度)

主に集落を対象とした17地点の調査結果(平成20年度)のうち、G特性音圧レベルの4季平均は、平日が46.5~61.6dB、休日が46.8~61.0dBで、平日、休日の区分で大きな差は確認されない。地点別では付近にボイラー等の施設がある豊原集落(LF-14)や宜野座村のIT企業立地予定地(LF-17)において高くなる傾向がみられた。

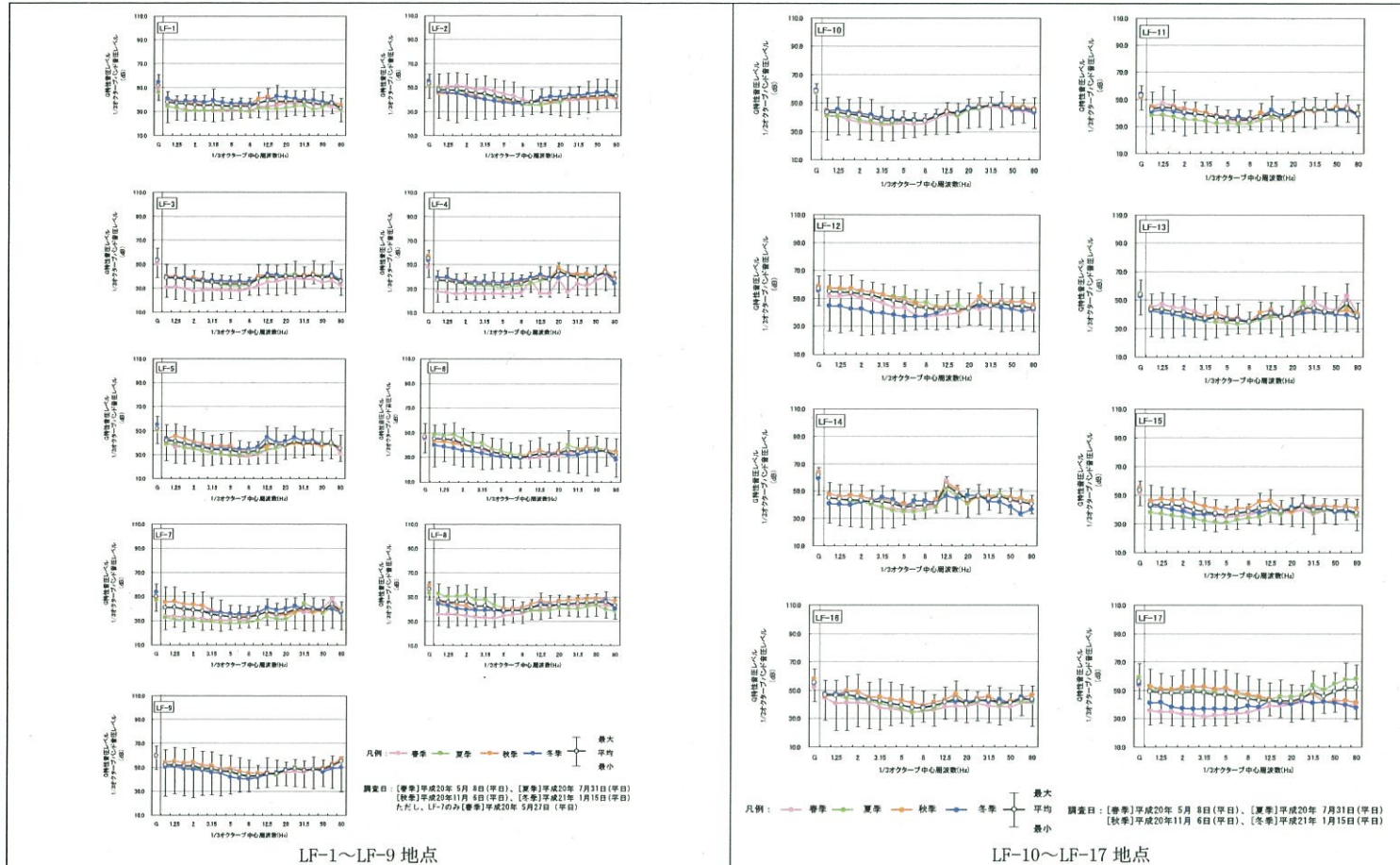


図-2.2.18 平日の調査結果

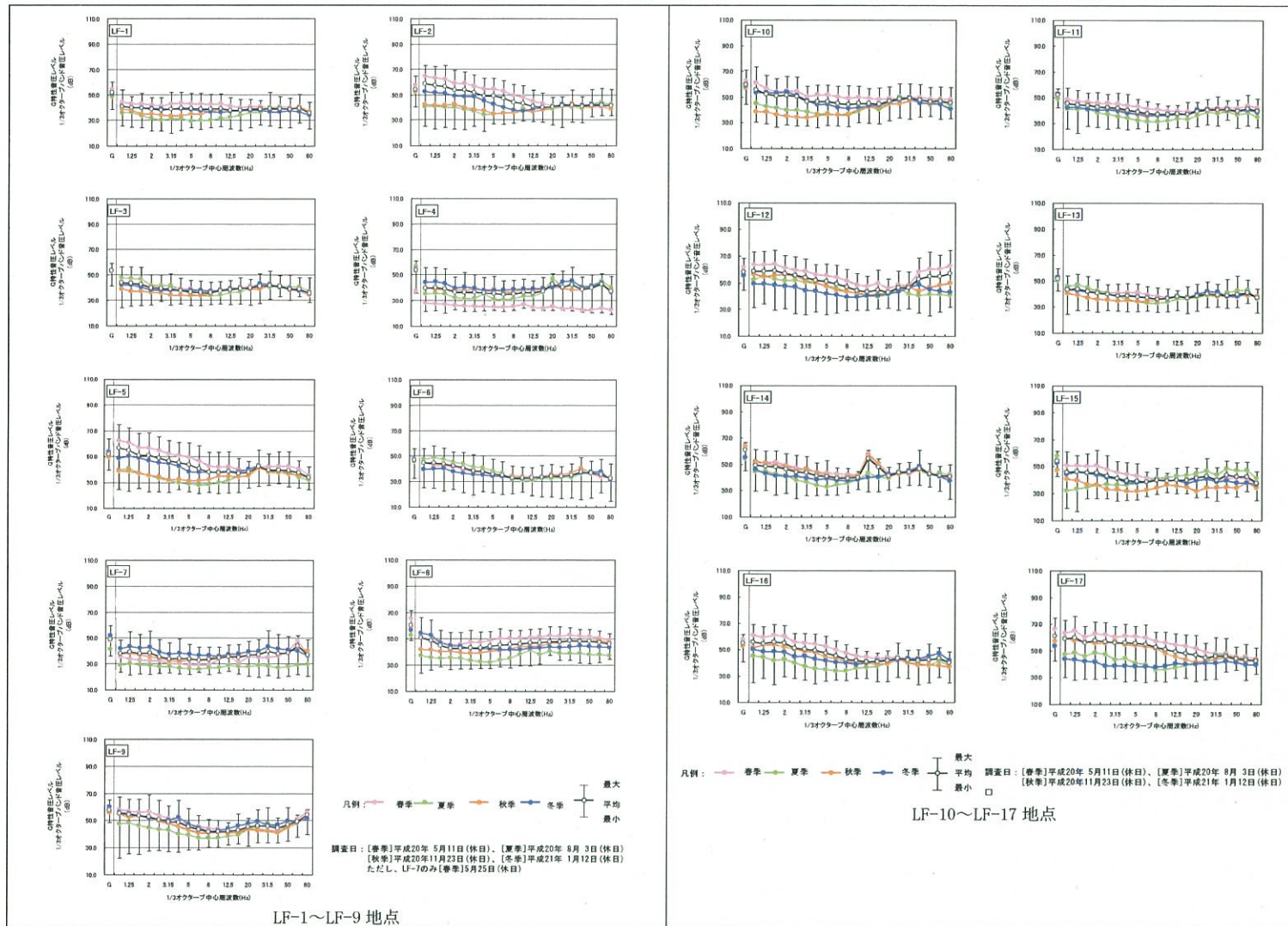


図-2.2.19 休日の調査結果

2) 調査地点の設定の考え方

建設機械、船舶に係る調査地点は、工事箇所の近傍住宅地とする。

資機材運搬車両等に係る調査地点は、資機材運搬車両等の走行ルート沿いの住宅地近傍とする。

3) 調査地点の設定結果

建設機械、船舶に係る調査地点は、国立沖縄工業高等専門学校、辺野古集落の計 2 地点とする(図-2.2.20)。

資機材運搬車両等に係る調査地点は、国立沖縄工業高等専門学校、世富慶、松田の国道 329 号の各沿道、辺野古集落側の工事用仮設道路沿道の計 4 地点とする。

(3) 調査時期・期間

工事期間中、年毎の工事工程を考慮して年 4 回(春季、夏季、秋季、冬季)とし、建設機械、船舶については建設作業騒音と同時期に昼夜(測定日の工事時間中)の測定を行う。資機材運搬車両等については道路交通騒音と同時期に 24 時間の測定を行う。

(4) 調査方法

低周波音測定マニュアル(環境省)に基づき、実時間周波数分析器を用いて 1/3 オクターブバンド中心周波数 1~80Hz の 1/3 オクターブ音圧レベルの測定を行う。風向・風速は、風向・風速計を用いて測定する。

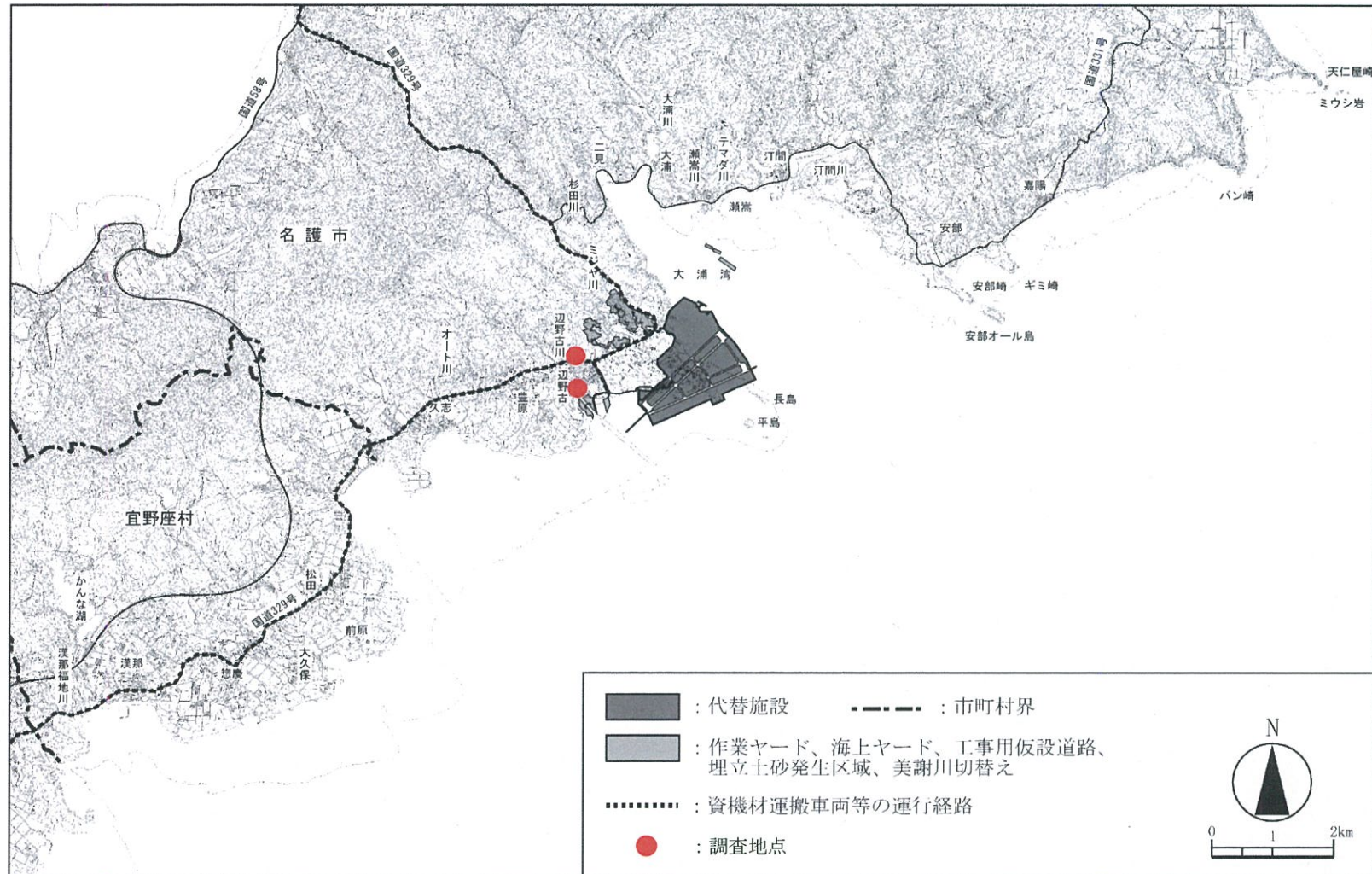


図-2.2.20(1) 低周波音の調査地点位置(建設機械・船舶の低周波音)
 (国立沖縄工業高等専門学校、辺野古集落の計2地点)